

倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会（第3回） 会議録
交通・移住・情報部会

- 1 開催日時 平成22年11月30日（月）13時50分～14時20分

- 2 開催場所 倉吉市成徳公民館視聴覚室（1階）

- 3 出席状況
 - （1）委員 出席者5名（福井_恒部会長、米田副部会長、山下委員、青木委員、福井_利委員）
 - （2）事務局 3名

- 4 目的 次に掲げる事項を検討、確認するために懇談会を開催したもの。
 - （1）交通・移住・情報部会（第2回）の会議のまとめ及び交通・移住・情報分野におけるSWOT分析の結果について
 - （2）圏域の課題と可能性の検討及び整理並びに圏域における将来像の方向性の検討について
 - （3）定住自立圏構想の推進に必要な手続きについて
 - （4）第4回懇談会（全体会）のスケジュールについて

- 5 次第
 - （1）開会
 - （2）あいさつ
 - （3）報告事項
 - ア 交通・移住・情報部会（第2回）の会議のまとめについて
 - イ 交通・移住・情報分野におけるSWOT分析の結果について
 - （4）検討事項
 - ア 圏域の課題と可能性の検討及び整理について
 - イ 圏域における将来像の方向性の検討について
 - （5）その他
 - ア 定住自立圏構想の推進に必要な手続きについて
 - イ 第4回懇談会（全体会）のスケジュールについて
 - （6）閉会

- 6 資料 別添資料のとおり

- 7 結果 本日の会議の結果、次のとおり報告及び検討を行った。
 - （1）交通・移住・情報部会（第2回）の会議のまとめ及び交通・移住・情報分野におけるSWOT分析の結果について
第2回懇談会（部会）で意見交換した内容を整理した資料に基づき、前回の部会の検討

結果を報告し、確認し合った。また、部会の検討と併せて事務局側で実施したSWOT分析の結果を報告し、圏域の強み、弱みなどを確認し合った。

- (2) 圏域の課題と可能性の検討及び整理並びに圏域における将来像の方向性の検討について
上記(1)の確認内容を踏まえ、圏域の各分野の課題を抽出し、圏域の可能性を整理した資料に基づき、圏域の課題と可能性を検討した。また、圏域の現状、課題と可能性等を踏まえ、圏域の将来像の考え方を整理した資料に基づき、圏域の将来像の方向性を検討した。
- (3) 定住自立圏構想の推進に必要な手続きについて
資料に基づき、第1回懇談会(全体会)で説明した定住自立圏構想の手続きの流れと現在の定住自立圏形成協定の協定項目について再度説明し、確認し合った。
- (4) 第4回懇談会(全体会)のスケジュールについて
次のとおり日程調整を行った。
平成22年12月27日(月)14時～16時 倉吉市役所大会議室(本庁舎3階)

8 会議内容(要旨) 以下のとおり

会議内容(要旨)

1 開会

○ 事務局

これから、倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会の第3回部会として、交通・移住・情報部会を開会させていただきます。それでは、はじめに福井_部部会長から御挨拶をお願いします。

2 挨拶

○ 福井_部部会長

明日から12月ということで、ますますお忙しくなってくる頃だと思います。今回は、第2回の懇談会の整理をして、課題と可能性、将来像について議論することになりますが、皆さんの忌憚りの無い御意見とアイデアを出していただき、どうぞ有意義な会になりますように、よろしくお願いします。

3 報告事項

- (1) 交通・移住・情報部会(第2回)の会議のまとめについて
- (2) 交通・移住・情報部会におけるSWOT分析の結果について

○ 事務局

前回の懇談会の報告ということで、次第3の報告事項に入ります。

前回の懇談会の中では、中部圏域の現状を話させていただき、委員の皆様方から交通・移住・情報の分野で、特に充足しているもの、不足しているものを含めて、自由に御意見をいただきました。その結果をまとめたものが、こちらの表になります。

まず、公共交通について。基本的には交通網については、一定程度整理させているという認識があったかと思います。また、道路整備においても、北条湯原道路の整備が進んだおかげで、一般道のトラックの危険性が減っているという意見がありました。ただ、今後ますます道路整備を望むという声もありました。また、新たな取り組みとして、ワンコインバスやNPOでの有償運送、乗り合いタクシーなど、インフォーマル的なサービスにも取り組んでいる反面、やはり中山間地の高齢者へのサービスが不足しているということで、今後、連携していくことが必要だという意見があったかと思います。それから、足りてないものの中で、バスと公共交通をもっと有機的に利活用できないかという意見がありました。それから、また利用者が少なくなっている現状を踏まえて、いかにそれを活かしていくかという意見がありました。これについては、医療・福祉・教育部会の方でも、通院手段の確保が必要という意見が挙がっております。

それから、移住・定住では、空き家バンクという形で取り組まれている中で、移住・定住のニーズが増えているという背景があるということと、それから三朝町ではうまくいった事例もありながら、逆に三朝町で受け入れに対する住民意識が低かったという意見もありました。連携強化ということでは、特に、大学等もありますし、NPOも盛んでありますので、そうした機関との連携を強める必要があるという意見もありました。他にも、農業振興の新たな取り組みということで、アンテナショップやネットワークをつくるということは今後でも取り組んでいく必要があるという意見があったかと思います。

一方、移住・定住の中で不足しているものとしては、定住促進の支援で、特に雇用面を支援しないと定住が進められないという意見や受け入れ体制がまだまだ不十分ではないかという意見があったかと思います。

情報の分野につきましては、「中部はひとつ」という連携の意識の中で、これまで様々な取り組みが進められてきてはいますが、ケーブルテレビの情報が2分化しているという意見があったかと思います。やはり、情報の共有化を図るということで、中部はひとつというところを進めていく必要があるといった意見がありました。以上、前回の部会でいただいた意見に関しては、このようにまとめさせていただいております。

次に、資料2でSWOT分析による圏域の課題と可能性の整理について説明します。この資料につきましては、充足しているもの、足りていないものに関する皆様の意見を踏まえまして、更に文献資料などから中部圏域の強み・弱みを整理し、圏域の改善していくものと今後伸ばしていくものに繋げるため、まとめた資料となっております。

次のページをご覧くださいと、まず地域公共交通では、先ほども話をしたところなので、細かくはまた見ていただけたらと思いますが、道路整備は進められているということで調べますと、道路舗装率は、湯利浜町、北栄町が県内で上位となっております。また、交通網としては、公共交通に関する協議会による検討が進められているとともに、いろんなインフォーマルなサービスがあること等は強みの部分かと思えます。また、安全の町ということで、交通事故死傷者数、道路交通法違反取締件数が県内の中では少なくなっています。そのようなところも一つ強みとして挙げさせていただきました。

弱みにつきましては、自家用車の移動が多いということで、高齢者の移動手段の不足やネットワークがまだまだ足りていないことを挙げさせていただいております。

その下の部分で、外部要因となる社会要因・ニーズに関して、機会で捉えますと、広域交通網の拡大をしているということ、特にE T Cの普及や高速道路の無料化など、交通網の広域化が進んでいること、いろんな自治体でも地域主体による移送などインフォーマルなサービスが普及しつつあることなどが傾向としてあります。

脅威、向かい風と書いていますが、これに関しましては、モーターレーゼーションの進展により、公共交通そのものの体制が衰退しつつあること、また通勤・通学の広域化などを挙げさせていただいております。

そういったところを見ながら、伸ばしていくもの、改善していくものを挙げています。公共交通、道路整備につきましては、今後も連携強化を図り、充実していくことと、それから地域高規格道路の整備を今後も進めていくということ、それから、インフォーマルなサービスは今後も確保・拡大をしていく必要があるのかなということ、挙げさせていただいております。改善していくものとしては、公共交通網の利活用や高齢者の移送手段の確保を挙げています。

移住・交流については、強み・弱みで見ますと、空き家バンクなどいろんな取り組みがあるということと、それから北栄町は、持ち家比率が県内でも高く、琴浦町、湯利浜町、北栄町では、持ち家延べ面積が県内で高い比率になっています。それから、短期大学等との連携であったり、これまでも行われている農業体験のイベントであったり、そういったものも、強みとして挙げています。

弱みの部分としては、住民の中でまだまだ移住を受けられる体制になっていないこと、雇用の問題などは、特に大きいところだと思います。

機会・脅威については、移住ニーズ等は高まっているものの、全国的な傾向として、移住人口の取り込みの国内競争が激化しており、ライフスタイルが多様化する中で、選択肢が広まっている傾向があります。

その中で伸ばしていくものとしましては、やはり移住に関する情報網を充実させながら、短期大学やN P Oとの連携を図っていくというようなところかと思います。それから、改善していくものとしては、受け入れ意識を醸成していくことと、就業環境の改善を図っていくことを挙げています。

情報分野については、強みということで、まずはケーブルテレビ加入率が高いということ、それから、「中部はひとつ」という連携意識も非常に高いものがあります。インターネットなどメールサービス等々について、各市町でも取り組まれているということと、そういったアクセスの件数も非常に増えてきているということを挙げています。

弱みの部分は、情報面で垣根があること、これに対しては費用面、人員面でリスクがあるということで、難しいところではありますが、弱みとして挙げています。中山間地では、情報通信基盤が整っていないというわけではないですが、より生活に密接した情報が重要になってくるということを挙げさせていただいております。

機会・脅威ということで、地デジへの転換、情報のネットワーク化、グローバル化していることを機会として挙げております。また、「情報の縁」づくりの必要性ということで、最近「情報交流人口」という言葉も出てきていますので、そのようなところを挙げさせていただいております。脅威としましては、情報化が進むにつれて、情報格差が進むということや、プ

ライバシーやセキュリティの問題というものを挙げています。

情報分野の中で伸ばしていくものは、ケーブルテレビなどの情報通信網の利活用を挙げています。改善していく部分としては、情報の共有化としています。

このようなところから、いろんな連携意識であったり、いろんな盛んなまちづくりであったり、また立地環境も含めて、中部圏域としては、人づくり、絆づくりが必要ではないかということと、また捉え方によっては、「利便性ある環境都市」こういったものを作っているのではないかということで、可能性の要素として挙げさせていただいております。

以上、前回の会議のまとめについての報告と、それを受けての強み・弱み、機会、脅威というSWOT分析の結果について説明をさせていただきました。この2つにつきまして、御意見をいただけたらと思います。いかがでしょうか。

○ 福井_利委員

資料1の道路整備のところですが、「北条町」となっていますが「北栄町」の誤りですね。そして、2つ目の「北条～和田」ですが、「北条～湯原」になります。

○ 事務局

訂正いたします。

○ 福井_利委員

資料1の情報の「中部はひとつ」の右側で、「北栄町では海辺3町でまとまっているという話をよく聞く。情報によって心理的バリアも解けるのでは」とありますが、「中部はひとつ」と言いながら、海側の3町がまとまっていることを活字にしてしまうと、逆のベクトルで動いている感じがするので、ここは表現を変える必要があります。「海辺3町でまとまろうという気運も少なからずある」というような、現状は否定しないけれども、決して大きな声ではないぞ、それでも中部はひとつだというようなところでもっていききたいところです。まとまったら「中部はひとつ」になり得ないと思います。

○ 事務局

ありがとうございます。SWOT分析のところ、伸ばしていくもの、改善していくものについて何かありませんか。

○ 福井_利委員

SWOT分析のシートの地域公共交通で改善していくものとして、高齢者の移動手段の確保となっておりますが、もう少し時代を時系列的に見ていく中で、これからの高齢化社会への移動手段の整備というような、これからの時代に視野を向けて言った方がいいのではないかと思います。今のお年寄りだけではなく、更に増していきますといった、そういう観点からどうでしょうか。

○ 福井_恒部会長

高齢化に向けてのビジョンということですね。

○ 事務局

分かりました。では、そういう表現に変えさせていただきます。

そうしましたら、次第4の検討事項ですが、その前に次第5のその他の定住自立圏構想の推進に必要な手続きについて、先に話をさせていただきたいと思います。

5 その他

(1) 定住自立圏構想の推進に必要な手続きについて

○ 事務局

資料4をご覧ください。これは定住自立圏構想の推進に必要な手続きについて、総務省から示されている流れを整理したものです。定住自立圏構想というのは、市と町が連携をし、取り組みを強化しようということで、国から支援をいただく手続きとしては、大きく1、2、3があります。

「1. 中心市宣言書の公表」では、周辺市町を含めて積極的に倉吉市が取り組んでいきます、ということ平成21年に宣言として行っています。それを踏まえて、次に「2. 定住自立圏形成協定」ということで、倉吉市と各町が1対1で協定の締結を行います。そして、この協定の中に明記しないといけないものが、右欄にありますように①から⑤まであります。ここで御確認いただきたいのが、③です。「連携する具体的事項」を示さないといけないということになっています。その内容については、添付のA4横のカラーになります。表の下の(1)(2)(3)の下に①～⑬まであります。現在、これが協定に入っている具体的な取り組みになります。部会の関係する部分であれば、真ん中の結びつきの部会に関わるのは、(2)の⑦⑧⑨⑩が協定に入っています。

手続きの段階で、市町の行政の関係者で協定を結んでおく必要がありましたので、③の部分は行政で必要最低限で協定しているものです。今回、皆さんに御検討いただきたいのは、「3. 定住自立圏共生ビジョンの策定」になります。ここで初めて3番目で懇談会が設置できます。③の部分の具体的な取り組みについては、協定に基づき推進する具体的な取り組みになりますので、協定の範囲内でできる具体的な取り組みになります。他の部会でも御意見がありました。懇談会の中でいろんな課題が出てくる部分はどうやって反映されるのかということです。この部分については、協定は1回しかできないというわけではなくて、随時変更ができるようになっています。懇談会で検討された課題について、市町間で合意が図られたところについては、例えば、今の協定の中で取り組めるものであれば、ビジョンの修正だけで入っていきますし、例えば、医療のように今の協定に入っていない場合は、2の段階に戻って協定を変更し、具体的な取り組みの部分に一つ項目を追加した上で、また3のビジョンに戻るようになります。ここがぐるぐる回っていくことになります。

今回初めてのことで、圏域を作っていけないと懇談会を設置できないということがありましたので、必要最低限のことをさせてもらっていますけれども、今後は合意形成された部分については、協定の見直しを行い、取り組んでいければと思っています。なお、今回の懇談会で出てきた課題については、懇談会の中でずっと引き継いで認識できるような形で、ビジョンの中には明記をしていきたいと思っておりますので、その点については、御了解いただけたらと思っています。

今の点で御質問等がございましたら、お聞かせ願えればと思います。

○ 福井_市部会長

タイムスケジュール的には、平成22年度までに策定となっていますか。

○ 事務局

今、3の手続きに入っていますが、ビジョンについては今年度の2月までに作成したいと

思っています。後は、合意形成ができた時点で、また議会の議決が必要となれば、その時の直近の議会にかけていく流れになります。

ただ、公共交通につきましては、協定を締結した時点で、補助事業の関係もあって、すぐにも取り組んでいく必要があり、既に取り組んでいます、全体的なスケジュールとしてはそのような形です。

○ 福井_市 部会長

具体的な取り組みについて、4町との議会を通さないといけないのですか。

○ 事務局

協定を変更するためには、その取り組みについて、合意ができた市と町の議会にかけする必要があります。あくまで、現在の協定の範囲外の場合になります。

○ 山下委員

具体的な取組みであがっている「公共交通に係る効率的な運行体系の確立」は、中部の公共交通協議会の方でも計画策定が進んでいると思いますが、ビジョンと計画とどちらが優先されますか。

○ 事務局

定住自立圏の具体的な取組みの中では、例えば、公共交通の効率的な運行体系を確立するために、総合連携計画を策定しますという取り組みになります。ビジョンに記載するのはそこまです。後は、それも踏まえて、公共交通の協議会の方が策定することになります。そういう関係でどちらが上位かということではないのかなと思いますが、ビジョンに位置付けることによって、その取り組みに必要な経費を、総務省の方から財政的な支援を受けられるということがあるので、定住のビジョンは、総務省が費用を出すためのチェック資料にもなります。例えば、公共交通の事業もここに挙がっていることになれば、例えば協議会の運営費を国の方から支援していただけることもあります。

4 検討事項

(1) 圏域の課題と可能性の検討及び整理について

(2) 圏域における将来像の方向性の検討について

○ 事務局

それでは次の検討事項として、次第4になります。資料3の第2章の圏域の課題と可能性をご覧ください。

まず、圏域の課題ということで、一番始めの項目群に人口による傾向からの大きな課題等を示しています。圏域の総人口は、特に減少傾向にある中で、このままで推移すれば少子高齢化の進行とともに、地域活力の一層の低下が懸念されるということ、また、全国的な人口減少社会の到来に対して、子どもや女性を含め多くの人々が活躍できる活動の場、機会の創出に努めることが必要になっているということ、そして、今後の流出人口を抑制するためには、まずは住みよさ・暮らし良さを向上させる取り組みを充実させて、魅力ある圏域づくりを進め、圏域外、国内外からも人を呼び込むことが重要ではないかとしています。

「3. 賑わいを生み出す結びつきやネットワーク分野に関連する課題」については、こちらの部会に関連するところになります。公共交通につきましては、JR、広域バス、路線バ

スなど一定の交通網が整備されている中ですが、連結・連携体制が不十分な面があるということ、また、利用者が少なくなっている中で、公共交通を維持するのが難しくなっている面もあります。移住に関しては、取り組みやニーズは増えてきていますが、住民の受け入れ意識が醸成されていないことや雇用面の課題で積極的に行えない状況があります。情報面では、ケーブルテレビは整備されていますが、中部圏域の中で情報が2分化されており、情報の共有化が求められているということを挙げております。

「4. 地域づくりを担う人材育成に関連する課題」では、全体的に関連がある部分となります。行政の体制として、職員の数が限られる中で、様々な業務を兼務でこなしていかなければならず、一方で、住民の方のライフスタイルやニーズが多様化しており、職員の方の専門知識や技術の習得が求められている状況です。

また、ボランティアが活発である圏域ではありますが、その反面、分野によっては連携して一体的に動けていないという課題があります。

それから、全国的に財政難であり、財源が縮小される中で、公的支援だけでは住民生活の質を維持していくのが困難になってきています。そのため、協働や共生などの視点から市民参画を推進し、行政、住民、企業、学校、NPO法人等の地域関係者が明確な役割を持って、まちづくりを進めていくことが重要になってきています。

以上、課題ということで、各分野の代表的なところを改めて整理させていただきました。

次に、圏域の可能性について説明いたします。全部で6つの項目があります。

「1. 美しい自然環境が整った魅力的かつ豊富な地域資源が存在する圏域」ということで、各部会の意見や統計的資料に基づいた中で、代表的な自然が各市町にあり、この美しい恵まれた緑の環境は圏域の最大の魅力と考えられます。また、そういった風土から、メロン、梨、スイカなど農産物や、和牛、乳牛などを含めた県内でも有数の特産物が生み出されています。その他にも、文化財の指定件数が、県内で上位となっており、非常に多くの歴史・伝統物、文化資源、名所などが存在しています。いずれにしても、こうした豊かな地域資源を有効に活用することが、魅力の向上に繋がるものと思います。

「3. 人とモノの交流を生み出すツーリズム要素の多い圏域」について、多種多様な歴史、伝統文化を併せ持つ倉吉市、県内でも有数の温泉資源がある三朝町、ロハスを推進しスローライフを感じることでできる湯利浜町、乳牛やラーメンでの独自の地場グルメを生み出している琴浦町、環境への取り組みや、漫画によるオリジナルなまちづくりを推進する北栄町、中部圏域の中では、各市町が持つ独自の観光施設及び豊富な観光資源が点在しています。また、各市町それぞれに豊かな自然や農産物などの資源が豊富にあり、訪れたい要素（ツーリズムにつながる要素）が備わっている圏域であると言えます。これによっていろんな分野とも結びつけることで、圏域内外でも足を運ぶ機会が大きく広がります。

「5. 県の中央部に立地する利便性を活かせる圏域」として、県の中央部に位置する本圏域は、岡山県、鳥取市、米子市・松江市に隣接している中で、山陰地方の東西南北の要として重要な位置付けにあると思います。また、都市圏へも短時間でいけるアクセスの環境にあります。今後、地域高規格道路網の整備が進むことによって、より一層アクセスが短縮できることで、ますます利便性の向上につながる可能性があると思います。

「6. 『中部は一つ』という連携意識の高い圏域」について、本圏域の中では各市町間の移

動が 30 分以内にできる範囲であること、そして、昔から中部は一つと強い連携意識をもって、いろんな広域的な取り組みを進めているということ、また、「ボランティア活動」の行動率では、鳥取県が全国 1 位と高い水準ですが、その中でも、中部圏域はボランティア活動や N P O 活動が盛んだという声を聞いています。そういった特色でもある、絆を大切にする温かい気風を持った土地柄・気質こそ、人と人を結びつけ、定住を促進するのに欠かせない要素ということで、連携や絆を大事にする要素を挙げています。

以上、圏域の課題と可能性になります。

○ 福井_利委員

「3. 賑わいを生み出す結びつきやネットワーク分野に関連する課題」で圏域内の自給率は低く、となっていますが、自給率は低いのでしょうか。

○ 事務局

自給率は、地産地消部会のところでお話がありましたが、ここは確かに御意見があって、部会の中では 50%という数字が出ましたが、学校給食に限った話なので、もっと詳しく数字を見てみないと低いか高いか分からないということで御意見がありました。この点に関しては、再度検討することになっています。

○ 福井_利委員

ここでいうところの自給率が低いということは、外から入れないと足りないということでしょうか。それとも、農産物の多くが外に出てしまっているということでしょうか。

○ 事務局

この文言を書かせていただいた背景としては、中部圏域が非常に多くの農産物がありますが、それを一次加工するところがなくて、圏内で消費する構造になっていないという意見があり、中部圏域は外から加工したものを取り入れて、給食などに使われているということで、地産地消として、自分のところで消費できる形が必要ではないかということの意味しております。数値については調べてみないと分かりません。

○ 福井_利委員

表現だけでみると、自給率そのものは低いということで、我々の実感とは異なる表現ではないだろうかと思います。その後続く、圏域内では消費できないと、といった表現も前の文章とうまく整合していない表現ではないかと思いました。検討しているとのことなので、状況としては分かりました。

○ 事務局

はい。引き続き検討します。

○ 福井_恒部会長

ちなみに、うちの施設でとうがらしを契約栽培で作っていますが、それを乾燥させて京都の漬物屋さんが買われて、加工したものがこちらに戻ってきます。生産そのものは行いますが、実際にそれが消費されているのかといえば違う話になります。たまねぎやじゃがいもなどは消費していますが、そういうものは沢山あるのではないのでしょうか。

○ 福井_利委員

一旦、外に出して加工されたものが、こちらに戻ってくる構造になっているということであれば、そのような表現がまた必要であるということですね。

○ 福井_福部会長

的外れなことというかもしれませんが、始めのところで、少子高齢化の進行とともに地域の活力が低下すると言われ続けておりますが、それじゃいけないということで、私も移住・定住の促進をするようなことをしておりますけども、最近、東京大学が「プランB」というのを出版されています。

これは少子化も高齢化もそんなに悪くないということで、これから自分達が向かっていく中で、少子高齢化の中でも活力を見出すための方向はあるし、地域の心を誇り豊かにすることも可能であるし、そういうような論文を10項目にわたって、発表されているものです。そういったことで、新たな考え方といったことを、視点として取り入れた方がいいのかなということで紹介します。ただ単に高齢化はまずいということよりも、それは認めざる終えない事実として受けとめて、そういった中山間地を中心とした交通、情報、移住、定住もそうですが、いかに元気で活力のある暮らしができるかといったことを捉えたような考え方、視点として、新たな段階にいかないといけないというものです。ただ、少子高齢化と聞いても、仕方がないと思いました。個人的な意見かもしれませんが、言わせていただきました。

○ 事務局

ありがとうございます。今、部会長さんからお話のあった部分については、最初の圏域の課題の2つ目の中点のところになりますが、高齢化等もあるが、高齢者も含めたより多くの人々が活躍できるような場づくりというか、そういうことですね。

○ 福井_福部会長

そうです。マイナスに捉えるのではなくて、プラスに捉えるということです。

○ 福井_利委員

現状は受け止めて、プラスに捉えるというビジョンですね。

○ 事務局

圏域の可能性の5のところ、関西圏まで2～3時間で発着可能と記載させていただきましたが、いかがでしょうか。

○ 山下委員

関西圏まで2、3時間で発着可能、そうですね。2時間はちょっとないかなと思います。

○ 事務局

少し短かったですね。すみません。

○ 山下委員

それともう一つ、課題の3で様々な交通網が整備されているが、非効率な路線体系の面があるという表現ですが、具体的にはどういうところでしょうか。

○ 事務局

ここは気を遣ったというか、どこまで書いていいのか分からず、こういった表現になってしまいました。具体的にした方がということですか。

○ 山下委員

これでいいとは思いますが、どこかでそれを見たか、感じておられて、こういう表現になっているのではないかと思ったので聞いてみました。

○ 事務局

はい、そうですね。前回の部会で御意見があったので、表現させていただきました。全部が全部というわけではないですが、前回の部会の御意見であったり、部会の資料編で出させていただきましたが、公共交通の協議会でのアンケート調査の関係でも、利用者の不足という部分については、自家用車であったりだとか、バイクを使っているという答えが多かったので、それと反対の表現というところで入れさせていただいています。

○ 山下委員

利用者の不足はその通りだと思いますが、安定的な運営が困難ということで、いずれこの辺を直していかないといけないと思っているところなのですが。

○ 事務局

一部というのを入れさせてもらいます。ここで言いたいことは、自動車を利用される方が多いということで、声として非効率ということがあるのではないかということ、そうは言っても、高齢者の足となる部分で必要だと思っていますので、きちんと課題として捉えておき、次の具体的な取り組みのところで、公共交通の取組に繋げていきたいと思っています。

○ 福井_利委員

ここで言う非効率というのは、経営側からみた時に、バスを一台運行した時に、そこにお客さんがしっかりと乗ってくれない非効率になります。だから、バスの運営会社としては、なかなか便数を多くすることができない、多くすることができないから、どうしても利用されるお客様の絶対数は少なくなります。少なくなるから、便もまたたくさん出せなくなります。というような、いわゆる負のスパイラルがどこまでも続いている現状があると思います。敢えて言葉を用いれば非効率となるわけで、決してバス会社の怠慢だとかを指摘しているわけではありません。逆に、公共的な責任を負っていらっしゃるから、それでも運行してくださいというような、行政や住民の声もあって、企業の社会的責任もあって、心を鬼にして、運行なさっているところに非効率さがあるというところは、もっと表現したいところだと私は理解しました。

○ 福井_恒部会長

情報の方で、ケーブルテレビは2分化していて、統一することができないというのは、どうしようもないのですか。

○ 青木委員

各局の成り立ちで運営体が違うので。

○ 福井_恒部会長

それを統合してということはありませんか。

○ 青木委員

また、それは先にそういう可能性もあるという話になります。

○ 福井_恒部会長

住民のニーズがあるという現状に対してでもですかね。

○ 青木委員

そういった、御意見を伺っているところですので、実現に向けて話の枠組みづくりを、どうするのかというところです。とりあえず、情報の共有化を主題に協議会で検討を進めているところです。先はどうなるか分かりませんが、とりあえずは。

○ 事務局

次に、検討事項2で圏域の将来像に入らせていただきたいと思います。ここについては、どういう考え方で将来像を作っていくのかということところで、特に7ページ目に将来像の柱を出していますので、御確認、御意見をいただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

圏域の将来像の方向性について、こちらは考え方として御理解いただければと思います。定住自立圏を考えた時に、無理なもの、無いものを探すのではなく、現在あるものを最大限活かして魅力を高めていくべきではないかと思えます。そのため、資源と機能の再認識と有効活用というところでポイントを置いています。目指すべき方向性としては、先ほど可能性にも挙げさせていただきましたが、強い連携意識の中で、中部圏域がしっかりと連携して、質の高い、暮らしやすさが感じられる定住に繋げていくことが必要ではないかという点と、観光資源や交流拠点など、ポテンシャルの高い地域資源を相互に連携・活用することで、圏域単位での「魅力」を創出することが必要ではないかという点の2つを目指すべき方向性として挙げています。

また、定住圏域に必要なものとして、『守りの機能』と『攻めの機能』があると言われていきます。守りの機能は、日常生活圏域内で住んでいる人々の暮らしや生命を守る取り組みです。医療、介護、教育、交通網の整備などの機能になります。それから、『攻めの機能』は、どちらかと言うと圏域外への取り組みです。全圏域的な魅力創出活動や経済的活動を促す取り組みである観光資源や歴史、伝統文化の活用、それから地域資源の情報発信、雇用の創出、産業の活性化などを併せ持つこととなります。まずは、守りの機能によって、いわゆる住み良き暮らし良さを高めることで人口流出を防止し、それから攻めの機能をもって魅力を高めることで、いろんな交流であったり、外からの人を呼び寄せることをしていこうということです。

次の6ページの表に、中部定住自立圏の取り組みの狙いをまとめています。内部の住民と外部の住民への影響と、関連する施策分野として整理しています。こちらで言うと、まずは内部の住民の方に、住んでいて良かったと感じてもらうことが重要だと思います。関連する施策としては、主に医療・福祉・住民参加となります。この時点で、外部の人は中部圏域を知っている程度です。次に、内部の住民には、中部圏域の中で楽しんでもらい、友達も呼ぼうと思ってもらい、外部の人は中部圏域に行こうと思ってもらい、訪問をするきっかけをつくるということで、情報・交流・観光の施策分野としています。次に内部の住民には、中部圏域の生活もなかなか良いと対外的に言えるようになってもらい、外の人は中部圏域の生活もなるほど良いなと思ってもらい、関連する施策としては公共交通・地産地消・情報になるかと思えます。次に内部の方が、他の地域よりも中部圏域で暮らそうと感じてもらい、外の人は、中部圏域に住んでも良いなと思ってもらい、環境・教育・移住の面などの施策を充実させます。最終的には、インフラ整備によって都市機能を強めて、産業振興として、中部で働く、中部圏域の雇用を確保し、定住に結びつけることが重要ではないかと思えます。このように、まずは住んでいる方の暮らし良さを高める必要があると思えます。そして、中部圏域の生活の価値観を圏域外に広め、移住促進を図り、人口流入を図ります。生活の価値観とは何かというと、「豊かさ」になると思えます。健やかにいきいきと暮らせること、ゆとりをもって快適に暮らせること、安全・安心に暮らせることなどです。そのような、

豊かさという部分が中部圏域の価値観として、活かせるような形で進めていければと思います。

そのような将来像の考え方を踏まえまして、柱を5つ挙げています。これは先ほどの可能性を踏まえた形となっています。1つは、「美しい自然環境、多彩な地域資源を活かしたまちづくり」です。2つ目に「安心・安全が確保された住み良いまちづくり」。3つ目に「活力・元気を創出する魅力あるまちづくり」。4つ目に「人やモノ、情報の流れを促し、結びつきを強めるまちづくり」。5つ目に「地域づくりを担う人を育成するまちづくり」。これらを今後進めるべき5つ柱として挙げています。

最終的には、将来像を表すキャッチフレーズで、中部圏域の将来像をまとめていきたいと思っています。今、各分野から、安心・安全や豊かさ、元気、活力などキーワードや特性が出てきていますので、この辺りのキーワードを整理しながら、キャッチフレーズにしていきたいと考えています。

最後に参考として、「他圏域の将来像を示すキャッチコピー」を付けています。全国的に定住自立圏ビジョンの策定が進んでいる中で、将来像を表すキャッチコピーが示されているところをまとめたものです。中海圏域では、「出会いは なかうみ 動き出す 未来」としています。また、青森の八戸圏域では「人・産業が元気で・魅力を創造・発信する北東北の中部圏域都市」、宮崎県の日向圏域では『森・川・海の環』、『人の和』、『産業の和』で繋がる交流都市圏」としています。最終は、中部圏域も特徴を活かしたキャッチコピーを作っていたらと思っています。中部圏域ならではの言葉であるとか、そういうアイデンティティのようなものとか、方言でもいいと思います。ぜひ、そういうものもあつたらお願いします。

○ 福井_利委員

「中部はひとつ」になると思います。

○ 事務局

「中部はひとつ」はいろんなところで使われていますが。

○ 福井_利委員

だからこそ、「中部はひとつ」。私はそれを用いるべきだと思います。

○ 福井_恒部会長

頭にもう一つつけたらどうですか。

○ 事務局

作り方はいろいろあります。美濃加茂では、将来像とは切り離したような感じになっています。逆に日向圏域であれば、3つの柱があって、3つの柱の要素を3つ入れて、都市圏としてくくられています。

○ 福井_恒部会長

これは公募になりますか。

○ 事務局

いえ。いただいた御意見をふまえ、事務局の中で考えさせていただいて、最終は懇談会で議論をいただいて案を作りたいと思います。懇談会として、こういう想いで作りましたよというのが、分かるような形の方がいいのかなと思っています。

よろしいでしょうか。「中部はひとつ」という意見もいただきましたけども、それでは今回

の第3回の部会も踏まえて検討させていただいて、第4回の懇談会で出させていただく形で御了解いただけたらと思います。

5 その他

(2) 第4回懇談会（全体会）のスケジュールについて

○ 事務局

最後に次の懇談会の開催日程の調整をお願いしたいと思います。

年末の大変お忙しい時期で申し訳ありませんが、12月27日（月）の午後2時からでお願いいたします。

6 閉会

○ 事務局

本日は、大変お忙しい中ありがとうございました。これで第3回部会を終了したいと思います。